



新病院建設News

No.9



医療センターでは建て替えの計画を進めています。新病院の計画は、医療センターで抱えている問題や新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、医師や看護師など病院スタッフで議論を重ねたもので、これまで以上に市民の皆さんの命を守っていくことができるものとなっています。

新病院建設Newsでは、この新病院の計画や医療センターが担う機能や役割などをお伝えしています。 院長 茂木 健司

今回の内容

新病院の実施設計について

新病院建設News第5号で、新病院の基本設計の概要をご説明しましたが、今回は、基本設計完了後、令和4年度末から令和5年度末にかけて行った実施設計（工事を発注するための図面を作成したり、工事費の積算をしたりする作業）について、その概要などをご説明します。また、実施設計を踏まえた概算整備事業費やその支払いについて、ご説明します。



外観イメージ 南側

基本設計から何が変わったのか

令和4年度に実施した基本設計の概算工事費は約560億円となりました。そこから工事費削減の検討を行い、工事費約548億円という想定で、一般会計及び病院事業会計の負担額の推移についてシミュレーションを行いました（詳しくは新病院建設News第6号をご覧ください）。

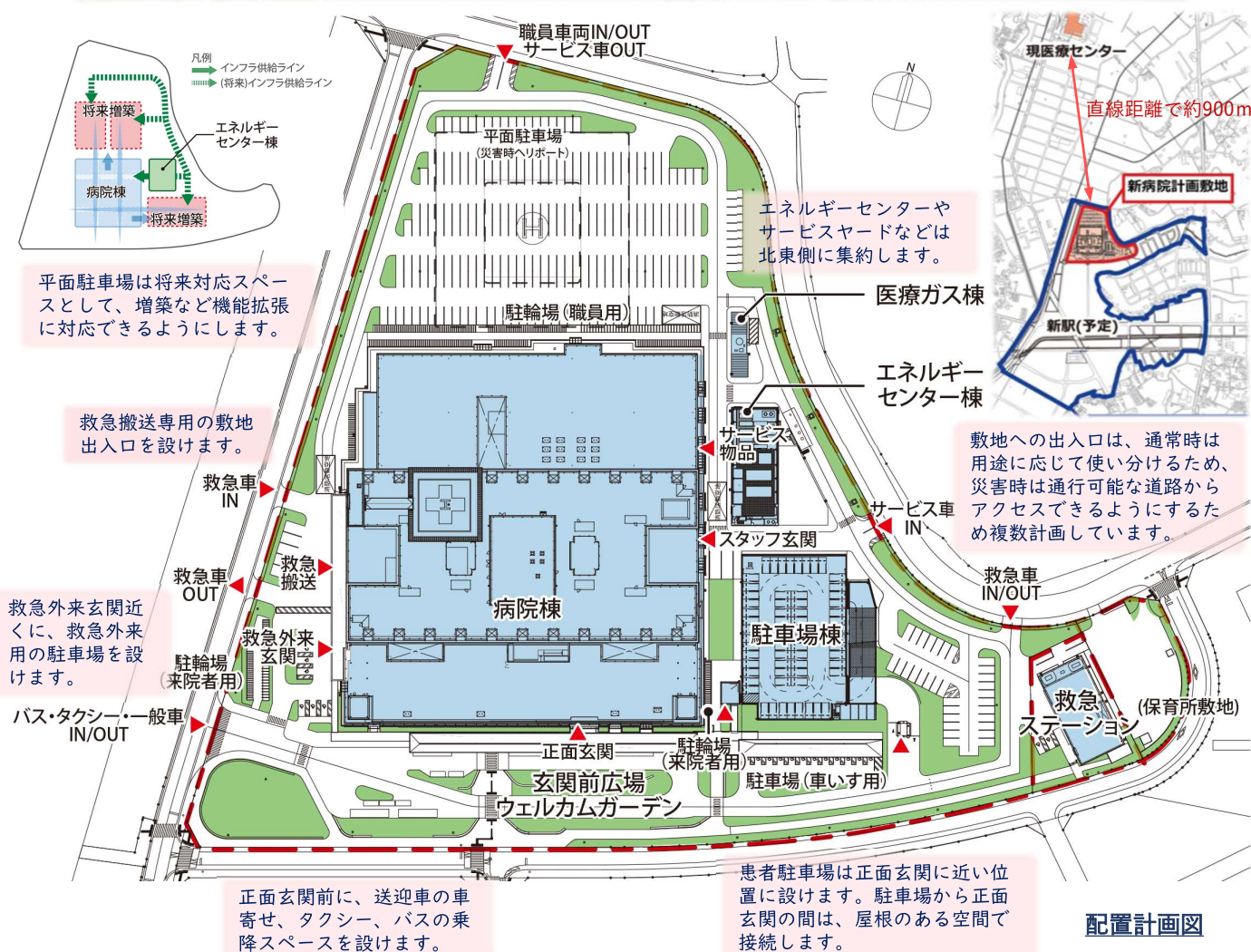
しかしながら、建築資材価格や労務費の上昇に起因する建築費の高騰は依然として続いていることから、実施設計を進める中でも、病院機能に大きな影響を及ぼさない範囲で工事費削減の検討を行いました。

主な変更内容

- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| ◆ 立体駐車場の規模見直し | ◆ 外装・内装及び外構の仕様の見直し |
| ◆ 手術室2室の内装を将来対応 | ◆ 院内保育所を将来対応 |
| ◆ 機能に大きな影響がない範囲の液状化対策の地盤改良の見直し | ◆ 搬送設備（気送管）の範囲縮小 |
| ◆ 圧密対策の地盤改良工法の見直し | ◆ 屋上庭園の取りやめ |
| | ◆ 会議室等の可動間仕切りの取りやめ |

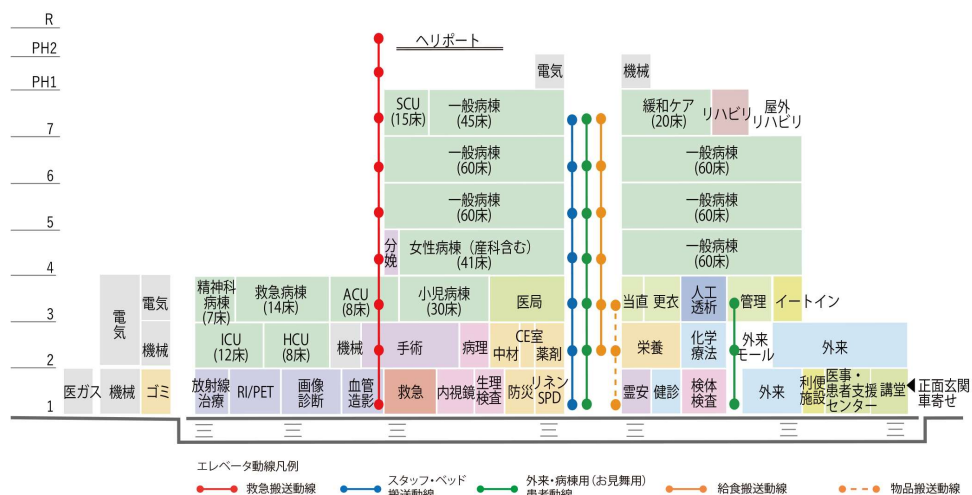
新病院の配置計画

建物の配置などは基本設計から大きな変更はありませんが、立体駐車場規模を縮小したことや院内保育所を将来対応としたことなどを反映しています。



新病院の部門階構成

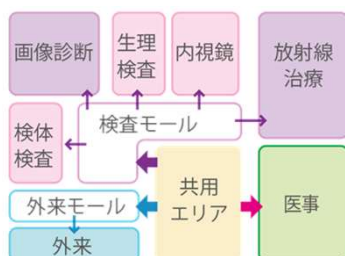
病院内の各部門の配置や病床数は、基本設計から変更ありませんが、屋上庭園の取りやめなどの工事費削減検討結果を反映しています。



- 建物中央部に、外来用、病棟用、スタッフ・ベッド搬送用、給食搬送用エレベーターを明確にゾーン分けして配置することで、機能毎にスムーズな移動が可能になります。
- 救急医療に関連する部門は、救急専用の大型エレベーターで直結させることにより、迅速かつ効率的な救急医療を実現します。



内観イメージ1階エントランスホール・外来モール

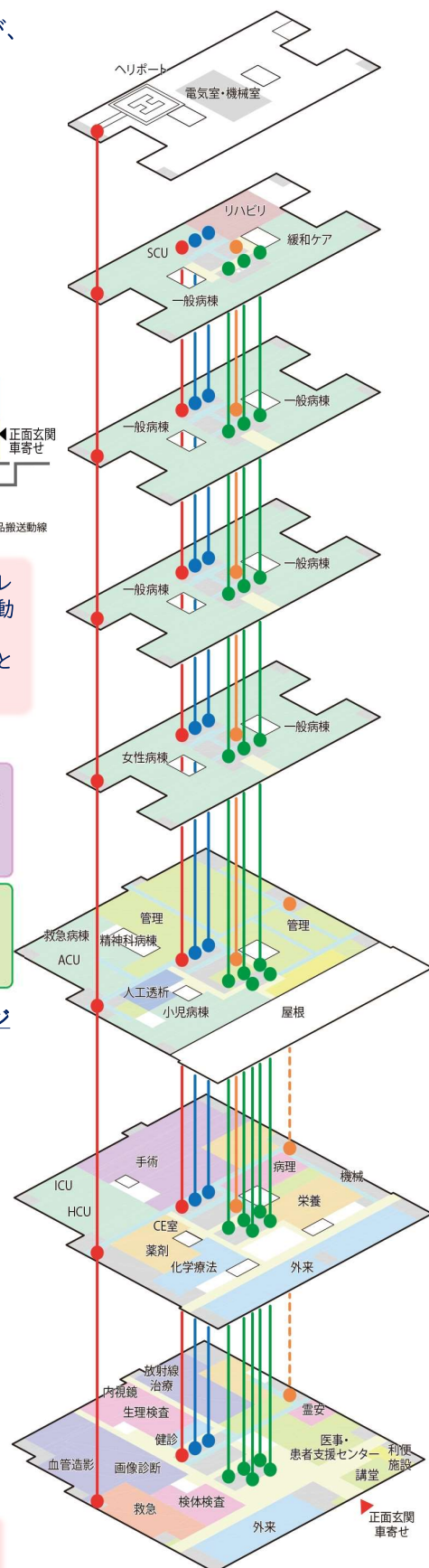


1階ゾーニングイメージ



内観イメージ1階外来モール

外来に関連する部門は、吹抜けを有する外来モールに沿って1階、2階に配置します。吹抜けまわりに設けるエスカレーターやエレベーターでつなぐことにより、スムーズに移動できるようにします。



新病院の災害対応計画

災害対応計画は、基本設計から変更がありません。新病院建設News第5号のほか、第7号「災害拠点病院の役割」、第8号「医療センターにおける新型コロナウイルス対応」でもご説明したとおり、地域災害拠点病院として、災害発生時に速やかに診療機能を復帰・維持し、患者の安全の確保に努めるとともに、多数の傷病者の受け入れに対応できる施設計画としています。

新病院の概算整備事業費

令和6年第1回船橋市議会定例会に、新病院建設工事の予算案を提出し、可決されました。予算案提出時点の概算整備事業費（新病院を建設し、移転、開院するのに必要な費用）は以下のとおりとなります。

① 設計等委託費 <約 17.9億円>

新病院の設計や工事の監理を行うために必要な費用です。

② 建設工事費 <約 571.2億円>

新病院を建設するための工事に必要な費用です。

③ 医療機器等整備費 <約 74億円>

新病院で新たに購入する医療機器や移転に併せて更新する医療機器、医療情報システムの整備や備品購入に必要な費用です。

④ 移転費用 <約 1.7億円>

新病院に移転するために必要な費用です。医療を継続しながら移転を行うため、入院されている患者さんの搬送なども行います。

⑤ 用地取得費 <約 58.4億円>

新病院を建設するために必要な土地を購入するための費用です。

概算整備事業費 約 723.2 億円

新病院整備に必要な費用の支払い

新病院建設News第4号で医療センターの会計について、第6号で新病院に移転するためにいくらかかるのか、そのお金はどう支払っていくのかについて、ご説明しました。

実施設計を進める中で、工事費削減の検討を行いました。工事費の高騰などから、想定していた工事費約548億円から増加する結果となりました。

この支払いについて、前回までのおさらいを含めてご説明します。

● 船橋市の会計の仕組み

市では、一般会計、特別会計、公営企業会計という3つの会計があります。医療センターは公営企業(病院事業)会計として、一般会計とは別の会計で運営しています。

一般会計

市の基本的な仕事(福祉、教育、ごみ処理、道路整備、消防など)を行うための会計です。一般的に市の予算と言えば「一般会計」をさし、市税を主な財源としています。

R6年度予算額：2352億5000万円

特別会計

特定の収入(国民健康保険料、介護保険料など)がある、特定の目的のための予算を経理する会計です。お金の出し入れをわかりやすくするために一般会計と分けて管理しています。

R6年度予算額：1157億3200万円

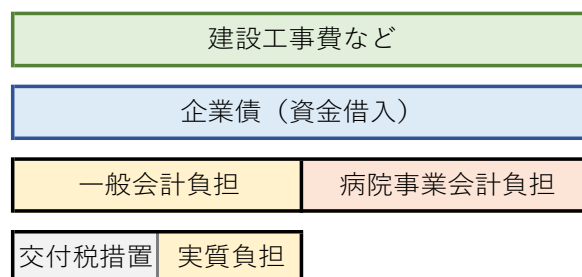
公営企業会計

企業性格を持った事業(市場、病院、下水道)を経営するための予算を経理する会計です。事業の収入を主な財源としています。お金の出し入れをわかりやすくするために一般会計と分けて管理しています。

R6年度予算額：674億735万円

● 支払いの仕組みと費用の負担

- 新病院整備に必要な費用の大半は、病院が資金の借り入れをして、支払います。
- 借り入れたお金は、次の年度から返済が始まり、返済が終わる年度までの間、分割して支払います。
- 新病院整備に必要な費用は、国の定める基準にて「病院の建設改良に必要な経費」に該当し、一定の割合で一般会計の負担が認められています。



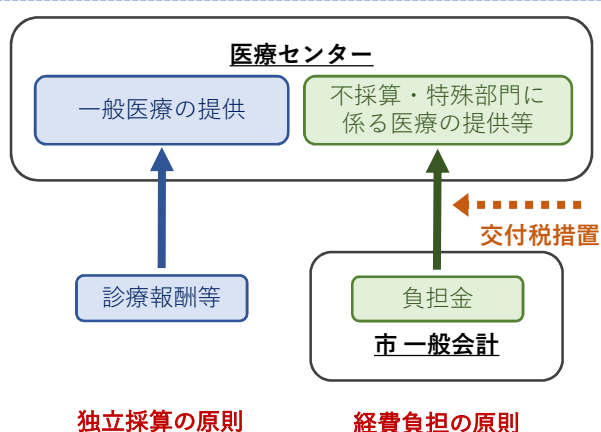
一般会計負担金について

地方公営企業である医療センターの経営においては、医療を提供するために必要となる経費は、医療センターの経営に伴う収入をもって充てるという独立採算制が原則となります。

一方で、採算をとることが難しい医療でも、公立病院の役割として採算性を無視しても提供しなければならないものがあります。

このような医療の提供に要する経費は、その自治体の一般会計または他の特別会計が、出資、長期の貸付、負担金の支出などの方法により負担するとされています。

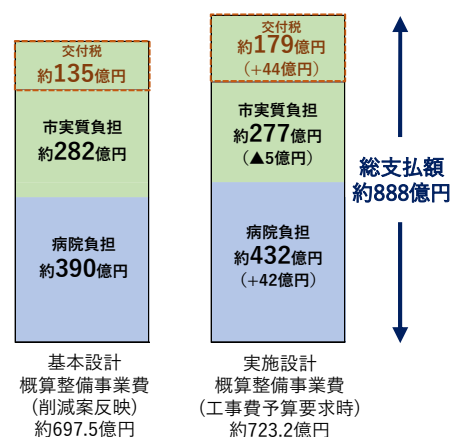
なお、一般会計から病院事業会計への繰出しには、国が定める基準により地方交付税措置がされます。



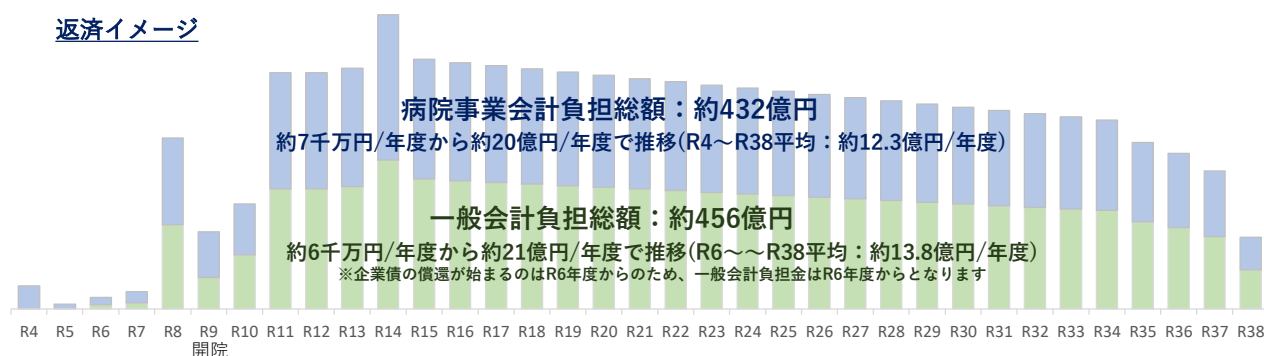
● 支払い総額と一般会計・病院事業会計の負担額

- 利子を含めた総支払額は約888億円（病院事業会計負担約432億円、一般会計負担約456億円）となります。
- 地方交付税措置を踏まえた一般会計の実質負担額は約277億円となります。
- 病院事業会計が負担する約432億円は、病院経営の中で毎年度支払います。
- 一般会計が負担する約456億円は、返済に合わせて毎年度、病院事業会計に負担します。

- ✓ 前回シミュレーションから支払総額は増えましたが、交付税措置の見直しにより、一般会計の実質負担額は約5億円軽減されました。
- ✓ 病院事業会計では、収支に係る条件の見直しにより、事業収支計画が改善しました。



返済イメージ



新病院ができると...

ここまで、計画の内容や費用の支払いについてご説明しましたが、ここで、患者さんの視線で、「**新病院ができたらここが良くなる**」について、主なものを整理します。

救急医療・高度医療のさらなる充実

手術室の拡充

現病院から手術室を増やします。部屋の大きさも、ロボット手術などに対応できるような大きさとなります。また、手術とカテーテル治療を同時にできる、ハイブリッド手術室も設置します。

現病院8室 ➡ 新病院13室

救急医療の強化

特に緊急性の高い重症患者を処置するER-OP室を救急部門内に設置します。また、救急撮影用CTやレントゲン室、血管造影室など関連する諸室を救急部門に隣接して配置します。より救急患者の受け入れがしやすい施設になります。

集中治療室の拡充

集中治療室（ICU）や、脳卒中集中治療室（SCU）を増やし、ベッド周りも十分な広さを確保します。また、新たに高度治療室（HCU）も整備することで、重篤な患者さんを、より一層、受け入れやすくなります。

ICU：現病院8室 ➡ 新病院12室

SCU：現病院9室 ➡ 新病院15室

HCU：現病院0室 ➡ 新病院 8室

化学療法室の拡充

年々増加傾向にある化学療法（抗がん剤を用いて癌を治療する治療法）に対応するため、化学療法室のベッド数を増やします。

現病院19床 ➡ 新病院37床

利便性・療養環境の向上

外来や検査部門を集約

現病院では診察室や撮影室が分散していますが、新病院では集約し、モール（主となる廊下）に沿って各部門を配置します。患者さんが迷うことなく目的の場所に行けるようになります。

病室を原則個室化

病室は原則個室になります。患者さんにとってプライバシー性の高い療養環境となります。なお、一般的な個室では、差額ベッド代はかかりません。

駐車場を敷地内に整備

新病院では、病院の敷地内に患者さんが使う立体駐車場を整備します。屋根がある空間で病院と駐車場が行き来できるようになります。

新駅が開業

東葉高速線の新駅が計画されています。現時点では、令和10年度の開業予定で、新駅から病院までは、約500メートルの距離となります。

今後のスケジュール

建設工事は今年度に着工する予定です。建設工事は、約3年（38か月）かかる見込みで、令和9年11月の工事完了を予定しています。その後、開院に向けた準備などを行い、**令和9年度中の新病院開院を目指しています。**



令和6年5月8日に、新病建設工事の公告を行いました。順調に手続きが進むと10月頃に着工となります。

● 発行年月日/令和6年5月21日 ● 編集/病院局新病院建設室
〒273-8588 船橋市金杉1-21-1 ☎ 047-438-3321 (代)

新病院整備に関する内容は
医療センターホームページ
にも掲載しています。

